



2026年12月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2026年5月15日

上場会社名 株式会社リベルタ 上場取引所 東
 コード番号 4935 URL <https://liberta-j.co.jp/>
 代表者(役職名) 代表取締役社長 (氏名) 佐藤 透
 問合せ先責任者(役職名) 専務取締役 (氏名) 二田 俊作 (TEL) 03-5489-7671
 配当支払開始予定日 —
 決算補足説明資料作成の有無 : 有
 決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2026年12月期第1四半期の連結業績(2026年1月1日~2026年3月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年12月期第1四半期	1,857	16.0	△415	-	△427	-	△246	-
2025年12月期第1四半期	1,601	△3.0	△176	-	△184	-	△128	-

(注) 包括利益 2026年12月期第1四半期 △247百万円(-%) 2025年12月期第1四半期 △128百万円(-%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2026年12月期第1四半期	△8.18	-
2025年12月期第1四半期	△4.28	-

- (注) 1. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、希薄化効果を有している潜在株式が存在するものの、1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。
 2. 2026年1月1日付けで普通株式1株につき普通株式5株の割合で株式分割を行っております。2025年12月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり四半期純損失を算定しております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年12月期第1四半期	7,195	1,303	17.9
2025年12月期	7,809	1,592	20.3

(参考) 自己資本 2026年12月期第1四半期 1,285百万円 2025年12月期 1,587百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年12月期	-	0.00	-	10.00	10.00
2026年12月期	-	-	-	-	-
2026年12月期(予想)	-	0.00	-	2.00	2.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

2026年1月1日付けで普通株式1株につき5株の割合で株式分割を行っております。2025年12月期については、当該株式分割前の実際の配当金の額を記載しております。2026年12月期(予想)については、当該株式分割後の内容を記載しております。

3. 2026年12月期の連結業績予想（2026年1月1日～2026年12月31日）

（％表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	5,535	31.6	△425	-	△490	-	△301	-	△9.99
通期	13,200	31.6	350	162.7	250	404.2	127	174.1	4.22

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更 : 無
新規 -社(社名)、除外 -社(社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
② ①以外の会計方針の変更 : 無
③ 会計上の見積りの変更 : 無
④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2026年12月期1Q	30,262,600株	2025年12月期	30,262,600株
② 期末自己株式数	2026年12月期1Q	237,020株	2025年12月期	138,520株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2026年12月期1Q	30,116,418株	2025年12月期1Q	29,890,095株

(注) 2026年1月1日付けで普通株式1株につき5株の割合で株式分割を行っております。2025年12月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、株式数を算定しております。

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー : 無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述についてのご注意）

本資料に記載されている業績の見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P3「1 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

（決算補足説明資料の入手方法について）

2026年5月15日（金）に当社ウェブサイトに掲載する予定であります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	6
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	7
第1四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等の注記)	8
(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	8
(重要な後発事象)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間における我が国経済は、賃上げの動きが継続する中で雇用・所得環境の改善、訪日外国人需要の回復を背景に、個人消費や企業活動に持ち直しの動きが見られるなど、景気は緩やかな回復基調で推移いたしました。一方で、物価上昇による実質購買力の回復の遅れや生活防衛意識の高まりに伴う消費の選別化に加え、円安基調の継続による輸入原材料価格の上昇、ナフサ価格をはじめとする原燃料価格の高止まり、エネルギー価格や物流費の上昇、人手不足を背景とした人件費上昇などにより、企業収益を取り巻く環境は厳しい状況が続きました。また、中東情勢の緊迫化による資源価格や海上輸送への影響懸念、米国における高金利政策の長期化、中国経済の減速懸念に加え、各国の通商政策や為替動向の変化など、海外経済の不透明感も継続しており、先行き不透明な状況が続いております。

このような環境のなか、当社グループでは『喜びを企画して世の中を面白くする』という経営理念のもと、機動的かつ柔軟に市場の変化に対応し、企画開発やプロモーション、販売、顧客リレーション活動に取り組んでまいりました。

この結果、主なジャンルの業績は以下の通りとなりました。

機能衣料については、汗と風で驚きの冷感が持続する冷感ウェアブランド「FREEZE TECH」は、スポーツ流通販路などへの需要拡大、ホームセンター流通を中心とした販路強化等で増収となりました。これにより、機能衣料商品売上高は165,786千円（前年同期比47.0%増）となりました。

トイレタリーについては、昨年4月に発売した風呂釜クリーナーブランド「ヘドロトルネード」は、主要チェーンでの導入初期の予算を大幅に上回ったことなどで増収となりました。「さよならダニー」は、前年からのプロモーション効果により取扱店舗数が前年を上回り増収となりました。これらにより、トイレタリー商品売上高は313,128千円（前年同期比33.3%増）となりました。

コスメについては、“目覚めてすぐキスできる”オーラルケアブランド「デンティス」は、2024年からの大型プロモーション効果で愛用者が増加したことによるリピート増や、新フレーバー「マスカットミント」の出荷、ブランド誕生20周年記念企画品の展開やECでのヒットが大きく貢献し、増収となりました。その他のブランドでは、『ドン・キホーテ』向け限定商品の取り扱い拡大とヒットにより、増収となりました。これらにより、コスメ商品売上高は742,387千円（前年同期比3.5%増）となりました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の経営成績は、売上高1,857,552千円（前年同期比16.0%増）、営業損失415,198千円（前年同期は営業損失176,462千円）、経常損失427,468千円（前年同期は経常損失184,931千円）、親会社株主に帰属する四半期純損失246,465千円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純損失128,094千円）となりました。

ジャンル別の売上高の状況は、次のとおりであります。

(単位：千円)

ジャンル	2025年12月期第1四半期	2026年12月期第1四半期	増減率
コスメ	717,392	742,387	3.5%
トイレタリー	234,932	313,128	33.3%
機能衣料	112,753	165,786	47.0%
浄水器・医療機器	239,271	290,430	21.4%
その他	296,709	345,820	16.6%
合計	1,601,060	1,857,552	16.0%

(注) 1. 前第1四半期連結累計期間に記載しておりました「生活雑貨・家電他」及び「リベート等控除」は、当第1四半期連結累計期間より「その他」に含まれております。

2. 一部ブランドにおいてジャンルの変更を行なった影響で、表内の前第1四半期連結累計期間の実績が修正されております。影響額は以下の通りです。

コスメ：△10,555千円、トイレタリー：+5,565千円、機能衣料：△319千円

浄水器・医療機器：+27,549千円、その他：△22,239千円

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第1四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ614,549千円減少し、7,195,134千円となりました。これは主として、子会社であるファミリー・サービス・エイコーの本社移転に伴う土地建物の売却により、有形固定資産が522,631千円減少したことなどによるものです。

(負債)

当第1四半期連結会計期間末における負債は、前連結会計年度末に比べ325,451千円減少し、5,891,366千円となりました。これは主として、売上好調な「ヘドロトルネード」や「デンティス」などの第2四半期の販売に向けた仕入れなどで、支払手形及び買掛金が286,066千円増加した一方で、子会社であるファミリー・サービス・エイコーの本社移転に伴う土地建物の抵当権解除による借入金の返済などで、有利子負債が442,467千円減少、親会社株主に帰属する四半期純損失の計上などにより、未払法人税等が128,696千円減少したことなどによるものです。

(純資産)

当第1四半期連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末に比べ289,098千円減少し、1,303,768千円となりました。これは主として、親会社株主に帰属する四半期純損失の計上や配当金の支払により、利益剰余金が302,000千円減少したことなどによるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

該当事項はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2026年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,200,581	1,085,556
受取手形及び売掛金	2,565,218	1,345,551
商品及び製品	2,248,883	3,119,502
原材料及び貯蔵品	130,453	153,393
その他	236,124	375,168
貸倒引当金	△248,448	△248,496
流動資産合計	6,132,813	5,830,676
固定資産		
有形固定資産	715,027	192,395
無形固定資産		
のれん	414,377	388,740
その他	267,483	297,428
無形固定資産合計	681,860	686,168
投資その他の資産	279,983	485,894
固定資産合計	1,676,870	1,364,458
資産合計	7,809,684	7,195,134

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2026年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,004,487	1,290,553
短期借入金	2,403,742	2,450,000
1年内返済予定の長期借入金	860,372	565,225
未払法人税等	130,498	1,801
その他	780,604	772,516
流動負債合計	5,179,704	5,080,096
固定負債		
長期未払金	63,083	63,083
長期借入金	852,136	659,225
リース債務	3,442	1,618
製品保証引当金	7,600	7,200
退職給付に係る負債	71,790	74,289
資産除去債務	39,062	5,853
固定負債合計	1,037,113	811,269
負債合計	6,216,818	5,891,366
純資産の部		
株主資本		
資本金	215,601	215,601
資本剰余金	408,628	409,593
利益剰余金	972,104	670,104
自己株式	△11,369	△11,369
株主資本合計	1,584,965	1,283,930
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	2,292	1,472
その他の包括利益累計額合計	2,292	1,472
新株予約権	5,609	18,365
純資産合計	1,592,866	1,303,768
負債純資産合計	7,809,684	7,195,134

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2025年1月1日 至2025年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自2026年1月1日 至2026年3月31日)
売上高	1,601,060	1,857,552
売上原価	991,849	1,232,007
売上総利益	609,210	625,545
販売費及び一般管理費	785,673	1,040,743
営業損失(△)	△176,462	△415,198
営業外収益		
受取利息	251	1,751
為替差益	6,068	1,707
その他	648	3,753
営業外収益合計	6,969	7,213
営業外費用		
支払利息	9,740	13,576
支払保証料	4,802	4,791
その他	895	1,114
営業外費用合計	15,438	19,483
経常損失(△)	△184,931	△427,468
特別利益		
固定資産売却益	-	63,946
特別利益合計	-	63,946
税金等調整前四半期純損失(△)	△184,931	△363,521
法人税、住民税及び事業税	8,647	856
法人税等調整額	△65,485	△117,912
法人税等合計	△56,837	△117,055
四半期純損失(△)	△128,094	△246,465
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△128,094	△246,465

四半期連結包括利益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2025年1月1日 至 2025年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2026年1月1日 至 2026年3月31日)
四半期純損失(△)	△128,094	△246,465
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	△187	△819
その他の包括利益合計	△187	△819
四半期包括利益	△128,282	△247,285
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△128,282	△247,285

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

当社グループは各種オリジナル商品等の企画販売を行う事業の単一セグメントのためセグメント情報の記載を省略しております。

(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第1四半期連結累計期間に係る連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む）及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2025年1月1日 至 2025年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2026年1月1日 至 2026年3月31日)
減価償却費	20,251千円	33,443千円
のれんの償却額	24,446 "	25,637 "

(重要な後発事象)

1. 株式の取得による株式会社クレアの子会社化

当社は、2026年3月6日開催の取締役会において、株式会社クレアの全株式を取得し、子会社化することについて決議し、同日付で株式売買契約を締結し、2026年4月1日付で当該株式を取得いたしました。

(1) 企業結合の概要

①被取得企業の名称及びその事業の内容

被取得企業の名称：株式会社クレア

事業の内容：化粧品、美容及び健康関連商品の企画製造及び販売

資本金：5,000千円

②企業結合を行った主な理由

当社は、2024年2月13日に発表した中期経営計画として2030年12月期に売上高300億円、経常利益20億円を数値目標とし、この達成のため基本戦略（新商品からヒット商品を出す）と5つの成長戦略（1. 主力ブランドの育成と活性化、2. 事業領域拡大、3. 海外販路強化、4. EC および直販の強化、5. 新商品の企画開発強化）を掲げております。また、当社はM&Aを活用した成長戦略を重要な取り組みの一つと位置付けております。

株式会社クレアは2007年の創業以来、スキンケアを中心とした化粧品のファブレスメーカーとして商品の企画開発及び販売を行っております。主力商品は薬用ディープクレンジング「SANTA MARCHE」をはじめとするクレンジング等のスキンケア製品であり、主に20～50代女性をターゲットとして、全国のドラッグストアやバラエティショップ等で販売されております。同社は、スキンケア分野に特化する中で培った商品企画力を強みとしており、特定カテゴリーにおけるブランド育成および継続的な商品展開の実績を有しております。

当社グループにおいても化粧品の企画・販売を行っておりますが、同社が有するスキンケア分野に特化した商品開発ノウハウおよびドラッグストアを中心とした販路基盤は、当社グループにとって補完性が高く、新たな商品カテゴリーの強化につながるものと考えておりグループ全体の商品力および販売力の向上が期待され中期経営計画の5つの成長戦略である2. 事業領域拡大を推進することが可能となります。

このようにそれぞれの強みを活かし協業することで当社グループの掲げる成長戦略の実現を図れるものと判断し、株式取得を決定いたしました。

③企業結合日

2026年4月1日

④企業結合の法的形式

株式取得

⑤結合後企業の名称

変更はありません。

⑥取得する議決権比率

100%

⑦取得企業を決定するに至った主な根拠

当社が現金を対価として株式を取得したことによるものです。

(2) 被取得企業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

取得の対価	現金	841,500千円
取得原価		841,500千円

(3) 主要な取得関連費用の内容及び内訳

現時点では確定しておりません。

(4) 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

現時点では確定しておりません。

(5) 企業結合日に受け入れた資産及び引き受けた負債の額並びにその主な内訳

現時点では確定しておりません。

2. 財務上の特約がある資金の借入

当社は、2026年3月27日開催の取締役会において、株式会社クレアの株式の取得の一部に充当することを目的として、以下の通り借入を行なうことを決議いたしました。

借入の概要

借入先	株式会社みずほ銀行
借入金額	840,000千円
借入利率	変動金利
借入実行日	2026年4月1日
返済予定日	2031年3月31日
担保	なし
財務上の特約の内容	①2026年12月期決算を初回とし、以降各連結会計年度の決算期末日における借主の連結の貸借対照表における純資産の部の金額を、2025年12月期決算と直前の連結会計年度の決算期末日の貸借対照表における純資産の部の金額のいずれか高い方の金額の75%以上とすること。 ②各連結会計年度の決算期における借主の連結の損益計算書に示される経常損益が、2025年12月期を初回とし、以降の決算期につき2期連続して損失とならないようにすること。